

梱包の注意点

- 1, 必ず輸送は佐川急便(株)を利用してください。
- 2, 輸送中に作品が破損すると選外になってしまう可能性がありますので、くれぐれも破損しないような梱包を行ってください。
- 3, 昨年、輸送中の振動によって破損するケースが多発しました。必ず梱包する箱の底には十分緩衝材を敷き、作品を入れてください。

※作品の重量がある場合は必ず、重量に耐えられる底にしてください。

例:ウレタンホーム1枚を敷くか、や段ボールを 2 重 3 重にする。さらにクッション(たとえばスポンジ)を入れる。入れないと振動が直接作品に伝わり破損します。



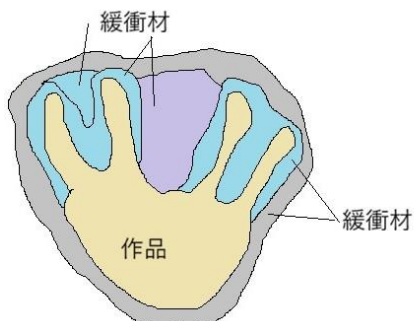
段ボール箱の底はしっかりとしたものを敷き、底が抜けないようにする。
必ず、底に緩衝材を敷いてから、梱包した作品を入れること



下敷き

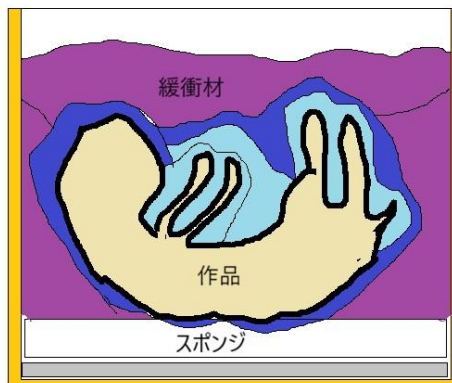
※箱の底には必ず緩衝材(新聞紙は使わないでください。)を入れてください。

- 4, 作品の梱包にはプチプチなどの緩衝材で全体を包んでください。なお、突起のある個所にはあらかじめ突起部分に緩衝材を当てて、その上から緩衝材で包んでください。



突起部分はできるだけ上にして作品の重量がかからないようにする
動物は背中を下にして箱に詰める

作品と箱の隙間には緩衝材を詰め、作品を固定する



- ① 箱に入れる場合は突起部分に直接作品の重量が当たらないようにすること。

- ② 箱から突起部分まで空間をつくり、その間を緩衝材で埋めること、箱に入った作品がずれないように箱と作品の間に緩衝材を入れること。
- ③ 外装の箱は、外からの衝撃に耐えられるよう、木箱や分厚い段ボールを使用すること。

5. 作品を入れる箱は、作品と箱の側面まで緩衝材が入る空間をとれる大きさの箱にしてください。

① 箱のサイズは緩衝材が入るスペースが取れる大きさの箱にする

② 作品が箱の中で固定されていないと箱の中で運搬中に動き、それが作品の破損に繋がります。

③ 箱の大きさは緩衝材を入れて作品が直接箱の側面に付かないように注意してください。

作品の大きさと箱のサイズの目安の例⇒



※複数のパーツを梱包する場合はパーツ一つひとつの間には必ず緩衝材を入れる。

6. 外箱には、「割れ物注意」「上積み厳禁」「陶芸作品が入っています」など、注意書きを目立つように貼付してください。